



社会科学の実践

Virtual

学生

学生の頃、また現在、誰にも負けないといえることは何ですか？

大坪会長

誰にも負けないと思うことは、決めたことはやり遂げるという意志の強さです。

皆さんには、「すぐやる」「必ずやる」「出来るまでやる」、この三つの言葉を覚えておいてください。自分の意志でやろうと決めた時には、この三つを必ず実行します。これはレンゴウの社内でも徹底しています。

コーディネーター

学生時代からそういう姿勢でおられたのですか？

大坪会長

そうです

コーディネーター

バレーボールも、1部までいくぞと。

大坪会長

そうです。やると決めたら必ずやる。

コーディネーター

それは子供の頃からの教育や何かがあるのですか？

大坪会長

基本的には、負けず嫌いというところがあるのだと思います。

学生

信仰や宗教のようなことが、私たちの世代だと希薄化しているように感じています。そのようなところが社会の変化に影響を及ぼしているのではないかと思うのですが、昔からの信仰や宗教が若い世代に浸透しない結果予想されることや、私たちがなぜ信仰や宗教に向き合えないのかということについて、何か思われることはありますか？

大坪会長

本当のところ「苦」とは一体何かということがわかっていないからではないかと思います。「四苦八苦」の「四苦」というのは「生老病死」、生まれた時、年を取っていく時、病気になる時、死を意識した時、これは非常に大きな「苦」ですが、この「苦」に対する対応の仕方というものを理解していないのではないのでしょうか。

またあとの四つ「愛別離苦」「怨憎会苦」「求不得苦」「五蘊盛苦」に対する対応の仕方というものも今の若い人たちは本当に理解しているのでしょうか。例えば学生の皆さんは「五蘊盛苦」というものに対して本当に対応できているのでしょうか。「五蘊盛苦」とは人間が生まれて持っている欲望のことですが、これをコントロールできるかどうかということが非常に重要ですので、このあたりのところをコントロールするために宗教（religion）が必要なのだと思います。

コーディネーター

我々は、お盆も実家に帰省することがなくなったり、お墓参りすることがなくなったり、宗教というものに触れる機会が少ないので、こういった講義の機会に社会人の先輩が示していただいたキーワードをきっかけに、そういう領域に関心を持って、自分でまず調べる、考えるということが習得できればと思います。

皆さん、やはりすぐ検索してしまいますので、考える作業を怠ってしまいがちであるというコメントがたくさん出てきています。

たとえば、堀江貴文さんなどITの権化のような方が言っているところだと、調べられることはまず調べろよというようなところがあります。しかし今日のお話を聞いて、考えるということが重要なのだなと思ったという感想が、学生からたくさんあがってきています。

大坪会長

モバイルで検索する前にまず自分で考える、ということを実践してください。ほとんどの方が、自分で考えることなく検索し、わかった気になっていると思います。社内でも、考える前に検索するなど言っています。

学生

大坪さんのプロフィールを見させていただいて、とても多忙なのではないかと思ったのですが、多忙な中でどのような休憩をとっているのでしょうか。

大坪会長

これは先ほどから言っていますように、あることが起こったらそれを「すぐやる」「必ずやる」「出来るまでやる」という姿勢でいます。すぐやるということで、ある程度できたら次の仕事に取り掛かります。多忙な時間をうまく振り分けて、だいたいすべて対応しています。どうしても出来なかったこともいくつかはありますが、いろいろなオファーが来た時にはそれに対応するように努力しています。

コーディネーター

大坪さんにとっての休息とはどういう時間なのでしょう。

大坪会長

自慢ではありませんが、寝ると決めたら立ってでも寝ることができます。電車通勤していた時も、立ってでも寝ようと思えばしばらく寝ることができました。10分間くらいそうやって寝れば、さっと目が覚めた時に生気がよみがえってきます。

学生

若い人たちには、いわゆる根性論や、プライベートを無しにすることをよしとするようなニュアンスと近いように聞こえると思うのです。根性論のような話と、いまの大坪さんが伝えたいメッセージとは何が違う、もしくは同じ、というようなことはありますか。

大坪会長

いまの若者には、本当に自分でやろうという熱気が感じられない人がとても多いと思います。だからやると決めたら「すぐやる」「必ずやる」「出来るまでやる」という、この精神を植え付けてほしいと思います。私は現場が一番重要だと考えており、「boots on the ground」という言葉を使っていますが、その次に「show the flag（そこへ旗を立てなさい）」という言葉が続きます。これが重要なのです。本当に「すぐやる」「必ずやる」「出来るまでやる」となった場合には、そこへ旗を立てるということになります。「boots on the ground and show the flag」ということを覚えておいてほしいと思います。